

■温室効果ガス削減の目標

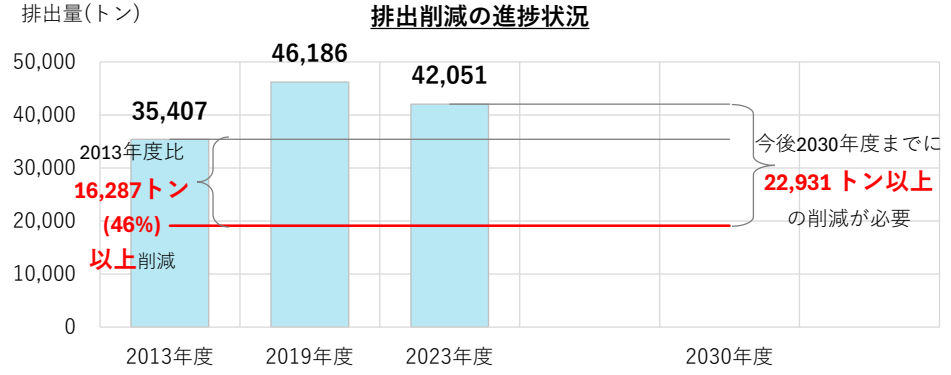
	削減目標 (政府目標値)
2030年度	2013年度比 46% (16,287トン) 以上
2050年度	カーボンニュートラル

■温室効果ガス排出量の推移

那覇空港の2023年度の温室効果ガス排出量は、2019年度比4,135トン減少の42,051トンである。
2030年度の削減目標 (2013年度比46%以上の削減) の達成には、今後22,931トンの削減が必要である。

	温室効果ガス排出量(トン)		
	2013年度	2019年度	2023年度
空港施設	31,848	42,308	38,505
空港車両	3,559	3,878	3,546
計	35,407	46,186	42,051

※小数点以下の端数処理により合計値が整合しないことがある



主に契約されている電力会社の排出係数・・・2013年度：0.692、2019年度：0.769、2023年度：0.680

■2019年度～2023年度の温室効果ガス排出量の増減背景

那覇空港では、第2滑走路が供用開始し国際線施設が増改築されるなど空港施設が拡大しているが、コロナ禍前(2019年度)と比べ2023年度の旅客数は95%程度に留まっており、主に契約されている電力会社の排出係数も低下している。さらに脱炭素化施策の取組が行われていることを背景に、温室効果ガス排出量は2019年度に比べて減少した。

■脱炭素化施策の取組状況

空港施設に係る取組	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 建築施設照明のLED化、空調の高効率熱源の導入、空調・換気の省エネルギー運用等の取組が行われた。 ➢ 航空灯火のLED化の取組が行われた。
空港車両に係る取組	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 電動車への更新、EV充電用の太陽光パネルの設置、バイオディーゼル燃料の利用が行われた。
再エネ導入促進に係る取組	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 太陽光発電設備の導入が行われた。
その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 駐機中航空機のAPU使用時間の制限が導入された。

(2024年度時点での協議会構成員からの報告をもとに作成)